大阪樟蔭女子大学における大学生活満足度調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川上, 正浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4349

大阪樟蔭女子大学における大学生活満足度調査

学芸学部　心理学科　川上　正浩

要旨：本研究では、本学の学生たちが、大学生活にどの程度満足しているのか、どのようなことに満足し、どのようなことに満足していないのかを把握することを目的とした。特に、在学生自身が、学生目線で作成した、きめの細かい満足度の測定項目を使用し、在学生 670 名を対象に調査を実施した。調査の結果、マナー満足、友人関係満足、価格設定満足、サークル満足、教科書販売満足、学業満足、清潔満足、図書館満足、成績開示満足、休講情報満足、学修環境満足、生協満足、コピー機満足、課外活動情報提供満足、エレベーター満足、静粛満足、グループワーク満足、オリエンテーション満足、教授法満足、食堂マナー満足の 20 の下位尺度が抽出された。これらの下位尺度得点について、学年間の差異、学科間の差異が検討された。

キーワード：大阪樟蔭女子大学、大学生活満足度、在学生

問題と目的

少子化による 18 歳人口の減少を受け、現代の大学は「冬の時代」を迎えている（牧野・森，2002）。こうした現代の大学において、大学教育の本分を見失わない唯一の方法は、学業に意欲的に取り組むことが、大学生活の満足度に繋がり、ひいては将来のキャリアにも繋がることを明示すること（p.189）であると、見舘・永井・北澤・上野（2008）は述べている。本研究では、本学学生の満足度に注目し、大学生活におけるどのような側面に対して、どの程度の満足度を得ているのかについて明らかにすることを目的とする。

このように特定の大学に所属する大学生に対して、その満足度を測定し、分析しようとする試みは、勝矢・小林・福田・山浦（2006）、縄田（2001）、縄田・加藤（2009）、小塩・願興寺・桐山（2006）、田川（2011）など数多く認められるが、これは 2000 年代以降、各大学が大学・教育の改革に取り組んできたことと関連している（田川，2011）。こうした現実を踏まえて、大学を、あるいは大学教育をより満足度の高い方向に発展させていくためには、このような現状把握のための調査は必要不可欠である。本学においても、筆者を含む研究グループにより、大学生活充実度について全体的な測定を行い、これを分析した結果について報告を行ってきた（川上・坂田・佐久田・奥田，2005；奥田・川上・坂田・佐久田，2010；坂田・佐久田・奥田・川上，2013）。

さらには、満足度の中でも、大学教育の本分である「授業」に対する満足度である、いわゆる「授業評価アンケート」を分析し、さらにはそれを授業の改善や満足度の向上に活かそうとする試みも多く認められる（伊藤，2008；華表・土井・松田・曽根，1987；田実・後藤，2017；田実・後藤・鈴木・古谷・高杉，2016；田実・鈴木・岩本・古谷・後藤，2012，2014；田実・鈴木・岩本・古谷・竹原，2010，2011；田実・竹原，2008，2009；田実・竹原・鈴木・岩本・古谷，2010；牧野，2002；南，2007；中野，2007）。もちろん大学生活に対する満足度そのものに対しても、測定を行うだけでなく、これを分析して心理学的な知見を得ようとする研究（牧野・森，2002；見舘他，2008；片倉・土田，1994；梅本，1992）や、戦略的にこれを活用しようとする研究（喜村，2011）もある。

さらには、留学生を対象にした満足度を調査し、大学における留学生の学習環境や支援活動の現状と問題点を明らかにすることを意図したもの（金城，2003）や、海外スクールインターンシッププログラムに参加した学生に満足度等を調査し、学生が求めるものや学んだものを明らかにすることを意図したもの（内田・亀山，2011）など、特定の学生を対象とした満足度調査によって、システムの特定領域に対する改善を目指す研究も少なくない。あるいは、初年次教育としての基礎ゼミ（岡村・加藤・清野，2014；岡村・清野・堀之内・加藤，2015）について分析を行ったものや、所

属大学の情報教育を評価するために、日商日本語文章処理技能検定受験の動向と合わせて、学生が本学の情報教育および情報環境をどのように評価しているのかについて、アンケート調査を実施したもの（塩沢・大泉・矢澤・友竹，2003)、医療機関に勤務する薬剤師を意識した実習である調剤実習を対象にアンケートを実施したもの（小林・小田・齊藤，2005)、本学における学生の帰属感を高揚させるためのプログラムをその対象として分析したもの（川上・坂田・佐久田・奥田，2009；奥田・川上・坂田・佐久田，2011；奥田・川上・坂田・佐久田・川野・川端，2016；坂田・佐久田・奥田・川上，2018；佐久田・奥田・川上・坂田，2014）など、特定の授業やプログラムに特化して調査を行い、その改善や開発を目指す研究も多く認められる。

本研究では、本学の在学生が、大学生活にどの程度満足しているのか、どのようなことに満足し、どのようなことに満足していないのかを把握することを目的とする。特に、学生目線での、きめの細かい満足度の測定を目指して、在学生とともに質問項目を作成し、在学生を対象に調査を実施する。

方　法

調査対象者

大阪樟蔭女子大学に所属する 18 歳から 25 歳までの大学生 670 名（平均年齢 19.3 歳、$SD = 1.01$）が調査に参加した。

調査時期

調査は、2017 年度 7 月から 11 月に実施された。

質問紙の構成

大阪樟蔭女子大学に所属する大学生の大学生活に対する満足度を検討するため、調査者グループ[1)]が尺度構成に適切であると思われるイメージをディスカッションして質問項目を作成した。ここでは「学生目線」からの具体的な事柄に対する満足度を抽出することが意図された。

質問項目は、「授業のマナー」、「授業内容」、「授業教室」、「施設の設備及び施設内でのマナー」、「行事内容」、「対人関係」、「大学のシステム」等について尋ねる項目が合計 106 項目作成された。具体的な項目については、表 1 に示されている。なお、配布された質問紙には、これら 106 項目の質問が、学生が回答しやすいと想定される質問（「先生とは話しやすい環境が整っている」）が一問目になるよう配慮した上で、一通りのランダムな配置で並べられた。

手続き

講義時間中、または休み時間中に調査者が質問紙を配布し、対象者は集団で調査に参加した。調査対象者には個人ペースでこれらに回答することが求められた。回答所要時間は約 15 分～ 20 分であった。一部の調査対象者については、質問紙を持ち帰り、記入のうえ調査者に提出することが求められた。

結　果

基礎データの集計

106 個の項目に対して、全調査対象者の平均値および標準偏差を算出した（表 1）。ただし、今回の調査は「満足度」を測定することを目的としていることを踏まえ、全ての項目に対して、満足しているほど得点が高くなるように各調査対象者の得点を変換したうえで、平均値の算出を行なっている。したがって、たとえば「授業中、周りの私語が気になる(R)」については、得点は逆転されており、その平均値が 3.0 であることは、満足度が 3.0 であることを表している。

大学生活満足度尺度の因子分析

大学生における大学生活の満足度の因子構造を解明するため、大学生活満足感尺度に関して最尤法、プロマックス回転による因子分析を行った。ただし本研究の因子分析においては、通常の心理学研究で行われるように、少数の因子で全体を説明することを目指すより、ある程度「多め」の因子数を設定することにより、本学学生の大学生活に対する満足度を仔細に検討していくことが可能となることを優先して行われた。

そのうえで項目や因子の解釈可能性や、どの因子にも因子負荷量が .35 未満であること、複数の因子に対して負荷量が .35 以上であることなどを考慮して、項目の削除を行ったうえで因子分析をくり返し、最終的に 20 因子を抽出した（表 2 ）。この 20 因子解においては、各項目がいずれかの因子にのみ .35 以上の因子負荷量を示している。

第 1 因子は、「授業中、携帯を触っている人が気になる」「授業中、周りの私語が気になる」「教室での携帯の充電が気になる」などの 8 項目に因子負荷が高く、学生のマナーに対する満足度に関する因子と考えられるため、“マナー満足”因子と命名した。

第 2 因子は、「大学内には話しやすい友達がいる」「頼み事ができる友達がいる」「大学の友達関係には不満がない」の 3 項目に因子負荷が高く、大学内での友人関係の満足度に関する因子と考えられるため、

表１　使用された質問項目と平均値および標準偏差

質問項目	M	SD	質問項目	M	SD
授業中，周りの私語が気になる(R)	3.0	1.18	エレベーターにまだ人が乗れるのに詰めてくれない人が気になる(R)	2.4	1.13
授業中，携帯を触っている人が気になる(R)	3.7	1.15	エレベーターの乗り降りはスムーズにできている	2.5	1.11
授業中，寝ている人が気になる(R)	3.9	1.08	サポートスクエアの窓口が少ないと感じる(R)	3.2	0.77
授業が遅刻者によって妨げられるのが気になる(R)	3.5	1.14	事務局では丁寧な対応をしてくれていると感じる	3.5	1.09
授業中，ドアの開閉音が気になる(R)	3.2	1.13	休講情報などのお知らせのメールの送信時期が適切でない(R)	2.4	1.16
授業中，グループワーク内でやる気の差を感じる(R)	2.4	0.97	事務局から同じメールが何回も来るのが不快だ(R)	2.6	1.18
授業中，飲食している人が気になる(R)	3.5	1.16	事務局での順番待ちがわかりやすい	2.8	0.75
授業で学びたいことが学べている	3.4	0.99	カフェの席数が少ないと感じる(R)	1.9	0.94
授業内容に興味がもてる	3.4	0.93	カフェの出入り口が１つしかないのが不便だ(R)	3.1	1.21
授業内容についていきやすい	3.2	0.84	カフェの営業時間がわかりづらい(R)	2.6	1.20
授業で座る場所が確保しやすい	3.0	0.92	カフェの商品の価格が高いと感じる(R)	2.3	1.04
教室の机の上が綺麗な状態で保たれていると感じる	3.1	0.97	カフェでカバンなどで席を取る人が気になる(R)	2.9	1.30
教室での携帯の充電が気になる(R)	3.7	1.18	カフェ内が騒がしい(R)	3.2	1.12
授業中，カバンを机の上に置いているのが気になる(R)	3.5	1.19	カフェの手洗い場が綺麗に扱われていると感じる	3.3	0.91
授業の間の教室移動が大変だ(R)	2.1	1.06	サークルについての情報が得やすい	2.1	0.89
成績の付け方がわかりにくい(R)	2.3	1.10	新入生歓迎会に呼ばれるゲストに満足している	2.4	1.08
テストの結果を知りたい(R)	1.9	0.98	新入生オリエンテーションの企画に満足している	3.0	0.87
単位取得に関する救済処置がある方が良い(R)	2.2	1.02	新入生オリエンテーションは友達を作りやすい環境であった	2.9	0.98
授業内課題の添削がわかりやすい	2.9	0.79	新入生オリエンテーションでの昼食は満足であった	3.2	1.00
授業内でレジュメを配布して欲しい(R)	2.2	0.98	プロジェクト活動の情報が得やすい環境である	2.8	0.84
授業内容でどこが重要なのかわかりづらい(R)	2.6	1.02	先生とは話しやすい環境が整っている	3.5	0.88
板書の量が多い方が良いと思う(R)	3.3	1.01	先生と連絡が取りやすい	2.8	1.03
板書やスライドを写す時，間に合わないと感じる(R)	2.6	1.08	サークル内では交流があると感じる	3.0	0.99
学生にとって勉強しやすい環境がつくられている	3.2	0.89	サークルでの活動に満足している	2.9	1.06
教室に時計があった方が良い(R)	1.8	0.99	ゼミのメンバーと交流しやすい	3.2	1.00
教室ごとに空調調節できた方が良い(R)	1.6	0.86	大学内には話しやすい友達がいる	4.2	0.94
情報教室での飲食が気になる(R)	3.5	1.14	大学の友達とはケンカをしても仲直りができる	3.5	1.01
情報教室で騒いでいる人が気になる(R)	3.3	1.12	大学の友達関係には不満がない	3.7	1.06
コピー機がエラーのまま放置されていると不快だ(R)	2.4	1.10	学科内での交流の機会は多い	2.9	0.96
授業中，近くの空き教室で騒いでいる人が気になる(R)	3.5	1.17	頼み事ができる友達がいる	4.1	0.95
生協（購買）の営業時間に不満がある(R)	2.6	1.21	授業内のグループワークでは話し合いやすい雰囲気である	3.3	0.96
生協（購買）に置いている電子レンジが少ないと感じる(R)	3.1	1.27	授業のグループワークメンバーとは連絡が取りやすい	3.1	0.98
生協（購買）の商品の値段に不満がある(R)	2.8	1.20	プロジェクト活動の内容に満足している	2.9	0.66
生協（購買）でのレジの行列が混雑していることが多いと感じる(R)	2.4	1.15	学費が高いと感じる(R)	1.8	0.92
生協（購買）の商品の種類を増やして欲しい(R)	2.3	1.19	学費がどう使われているのかわからない(R)	1.9	0.91
生協（購買）の出入り口付近は通りやすい	3.1	1.04	奨学金のサポートは充実している	3.1	0.82
生協（購買）の利用スペースが清潔に保たれている	3.5	0.85	インターンシップ関連の情報が手に入りやすい	2.7	0.82
図書館の新刊本が少ないと感じる(R)	3.2	0.97	インターンシップの時間割に不満がある(R)	3.1	0.80
図書館の雑誌の種類が少ないと感じる(R)	3.1	1.00	取得可能な資格の種類が豊富だと感じる	3.4	1.01
図書館の蔵書検索システムが使用しにくい(R)	3.1	0.97	資格取得に関する授業は学科の必修科目と重なる(R)	2.7	1.00
図書館で本が探しづらい(R)	3.0	0.99	学内のWi-Fiは利用しやすいと感じる	1.9	1.12
図書館の利用方法が分からない(R)	3.5	1.18	学期始まりの休講情報が確認しづらい(R)	2.0	1.04
トイレが混雑している(R)	2.1	1.04	manabaの使い方はわかりやすい	3.6	0.92
トイレの洗面台が綺麗に扱われていると感じる	3.4	1.07	受講登録開始日の回線が混雑していると感じる(R)	2.1	1.12
食堂の席数が少ないと感じる(R)	2.3	1.13	受講登録の開始日に不満がある(R)	3.0	1.22
食堂の並ぶ列が分かりにくい(R)	3.2	1.12	受講登録期間の長さに不満がある(R)	3.2	1.25
食堂のメニューが割高だと感じる(R)	2.6	1.08	受講登録の方法はわかりやすい	3.1	1.04
食堂の席の譲り合いができていないと感じる(R)	2.9	1.03	祝日なのに授業があるのは不満だ(R)	2.0	1.11
食堂で食後のトレーを片付けていない人が気になる(R)	3.2	1.12	CAP制に満足している	3.0	0.88
食堂の机の上が清潔感がないと感じる(R)	3.3	0.98	教科書販売の時間が短いと感じる(R)	2.8	1.18
学内のエレベーターが少ないと感じる(R)	1.9	1.05	必要な教科書が教科書リストに載っていない(R)	2.7	1.12
エレベーターへの開封した飲食の持ち込みが気になる(R)	3.6	1.16	教科書販売の期間が短いと感じる(R)	2.9	1.27
エレベーターの開閉ボタンを押さない人が気になる(R)	3.1	1.25	教科書販売は予約注文制にしてほしい(R)	3.0	1.22

表２　因子分析結果

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII	XIX	XX
I．マナー満足　（8項目：α＝.812）																				
授業中，携帯を触っている人が気になる	**.740**	.013	.008	-.021	-.005	.020	-.072	.064	-.055	-.104	.042	-.083	.002	.123	-.025	.043	-.103	-.010	.004	.005
授業中，飲食している人が気になる	**.663**	-.015	-.090	.065	.012	-.008	.082	-.023	-.039	-.070	-.086	.092	-.055	-.008	-.013	-.017	.032	-.060	.117	.133
エレベーターへの開封した飲食の持ち込みが気になる	**.653**	-.080	.010	-.022	.065	.082	.022	-.023	-.022	.057	.054	.042	.023	-.079	.018	-.050	.087	-.039	-.088	-.099
授業中，寝ている人が気になる	**.588**	.027	.022	-.004	-.093	-.072	.049	.109	.059	-.096	-.117	.034	-.101	.020	-.031	.006	-.054	.169	.045	-.071
授業中，近くの空き教室で騒いでいる人が気になる	**.575**	-.017	.000	.005	-.053	.028	-.021	-.058	-.008	.080	-.021	.026	.036	-.005	.007	.066	.038	-.093	-.091	.229
教室での携帯の充電が気になる	**.555**	-.006	.087	-.055	.052	-.005	-.074	-.028	-.093	.016	.070	-.121	-.048	-.052	-.058	-.014	-.127	.093	.084	.242
授業中，周りの私語が気になる	**.510**	.039	-.044	.070	-.041	-.016	.005	-.041	.146	.040	-.074	-.022	.071	.112	.076	.038	.117	-.108	.002	.055
カフェ内が騒がしい	**.442**	.055	.068	-.004	.037	-.059	.058	-.014	.115	.130	.075	-.018	.031	-.039	-.003	-.055	.048	.029	-.069	-.075
II．友人関係満足　（3項目：α＝.732）																				
大学内には話しやすい友達がいる	-.007	**.882**	.026	-.018	-.013	-.034	-.009	.028	-.011	-.042	.131	.040	.000	-.038	-.038	-.021	-.040	.004	-.131	.043
頼み事ができる友達がいる	.021	**.785**	-.018	-.002	.024	.030	.000	-.050	.014	-.021	-.032	-.028	-.045	-.005	-.003	-.014	.047	-.015	.047	.047
大学の友達関係には不満がない	-.040	**.455**	-.019	-.010	-.048	.072	-.023	.060	-.050	.109	-.065	-.034	.044	.036	.033	.034	.035	.114	.112	.006
III．価格設定満足　（3項目：α＝.769）																				
食堂のメニューが割高だと感じる	-.024	-.027	**.915**	-.028	-.017	-.037	.035	.064	-.012	-.022	-.112	-.030	-.033	-.053	-.026	-.016	.117	.064	-.065	-.010
カフェの商品の価格が高いと感じる	-.029	.004	**.761**	.041	-.005	.016	.044	-.005	.026	-.059	-.070	.025	.098	.101	.020	-.051	-.013	-.180	.032	.036
生協（購買）の商品の値段に不満がある	.082	.034	**.545**	-.015	.053	.047	-.054	-.098	.021	.006	.111	.130	.038	-.069	.075	.074	-.083	.047	.031	-.185
IV．サークル満足　（2項目：α＝.778）																				
サークル内では交流があると感じる	.019	.045	.010	**1.017**	.045	-.042	-.008	-.011	-.042	.034	.027	-.018	-.007	-.040	-.068	-.001	-.017	.016	.020	-.100
サークルでの活動に満足している	.011	-.083	-.018	**.615**	-.035	.077	-.018	.008	.022	-.089	.020	.005	.005	-.008	.088	.019	-.011	.058	-.063	.118
V．教科書販売満足　（2項目：α＝.806）																				
教科書販売の時間が短いと感じる	-.036	.033	.079	.000	**.937**	-.014	-.004	-.009	-.009	-.061	-.058	-.024	-.021	.001	.012	.031	-.001	.047	.097	.051
教科書販売の期間が短いと感じる	.017	-.054	-.074	.018	**.702**	-.008	.012	.037	.046	.063	.066	.048	.004	.050	.000	-.045	-.015	-.015	-.087	.032
VI．学業満足　（2項目：α＝.749）																				
授業で学びたいことが学べている	.029	.049	.004	-.006	-.023	**1.066**	.006	.015	.006	-.007	-.101	.034	.014	.008	-.024	-.023	-.009	.003	-.028	-.086
授業内容に興味がもてる	-.053	-.039	-.014	.060	.015	**.496**	.029	-.042	.043	-.014	.197	-.008	-.041	-.012	-.010	.034	-.004	.031	-.110	.155
VII．清潔満足　（3項目：α＝.619）																				
トイレの洗面台が綺麗に扱われていると感じる	.035	.006	-.025	-.039	.022	-.023	**.732**	-.056	.111	.067	.021	-.053	-.010	-.004	.046	.020	-.118	.033	-.095	.007
カフェの手洗い場が綺麗に扱われていると感じる	.001	-.015	-.010	.023	-.019	.062	**.609**	.113	-.076	-.105	.071	.028	-.035	-.051	-.010	-.067	.049	-.044	.153	.040
教室の机の上が綺麗な状態で保たれていると感じる	.002	-.029	.133	-.016	.003	-.007	**.426**	-.065	-.136	.072	-.021	.003	.014	.019	-.062	.055	.117	.091	.040	.051
VIII．図書館満足　（2項目：α＝.648）																				
図書館の蔵書検索システムが使用しにくい	-.021	-.005	.055	.029	-.030	-.049	.065	**.754**	.037	.063	.132	.029	.000	-.019	-.053	.061	-.058	-.005	-.160	.032
図書館で本が探しづらい	.024	.017	-.047	-.036	.062	.049	-.066	**.670**	.027	-.026	-.049	.010	.018	-.007	.093	-.040	.047	.038	.110	.050
IX．成績開示満足　（2項目：α＝.597）																				
成績の付け方がわかりにくい	.017	-.042	.011	-.010	.042	.019	-.079	.039	**.836**	.007	.038	.008	-.040	-.042	-.092	-.025	.072	.045	.010	.060
テストの結果を知りたい	-.006	.013	.014	-.018	-.007	.012	.049	.024	**.586**	-.087	-.102	-.026	.037	.014	.059	.033	-.077	-.019	.096	-.135
X．休講情報満足　（2項目：α＝.571）																				
休講情報などのお知らせのメールの送信時期が適切でない	-.005	-.013	-.108	-.058	.016	-.016	.023	.033	-.089	**.698**	-.021	.084	-.023	-.018	-.035	-.005	.001	.088	.053	-.010
学期始まりの休講情報が確認しづらい	-.014	.024	.064	.026	-.022	-.001	-.012	-.005	.029	**.649**	-.102	-.048	.025	.073	.052	-.006	-.083	-.060	.074	-.012
XI．学修環境満足　（2項目：α＝.500）																				
授業内容についていきやすい	-.016	-.004	-.089	.039	-.013	-.070	.000	.090	-.049	-.050	**.780**	.020	.082	.077	.019	-.043	.098	-.060	.088	-.115
先生とは話しやすい環境が整っている	-.064	.109	-.003	-.014	.036	.045	.099	-.067	.003	-.057	**.424**	-.002	-.048	.109	.034	.072	-.006	-.092	.002	-.011
XII．生協満足　（2項目：α＝.597）																				
生協（購買）の商品の種類を増やして欲しい	.009	-.040	.127	-.014	-.056	-.023	-.039	-.020	.007	-.061	.140	**.666**	.003	.014	.042	-.005	-.090	.022	.084	.040
生協（購買）に置いている電子レンジが少ないと感じる	-.010	.023	-.009	-.005	.081	.068	.008	.063	-.026	.118	-.107	**.591**	-.035	.038	-.074	.025	.037	.013	-.012	.040
XIII．コピー機満足　（1項目）																				
コピー機がエラーのまま放置されていると不快だ	-.027	-.019	.061	-.003	-.018	-.001	-.027	.009	-.002	-.005	.070	-.026	**.946**	-.011	-.060	-.003	-.029	.111	.036	.198
XIV．課外活動情報提供満足　（2項目：α＝.497）																				
インターンシップ関連の情報が手に入りやすい	.077	-.027	-.012	-.065	.066	.024	-.044	.015	-.069	.031	.153	.009	-.006	**.766**	-.007	.012	.040	-.029	-.039	-.085
プロジェクト活動の情報が得やすい環境である	-.057	.034	-.014	.058	-.060	-.054	.046	-.106	.126	-.003	-.015	.085	-.025	**.401**	.009	-.070	-.003	.211	.082	.121
XV．エレベーター満足　（2項目：α＝.539）																				
エレベーターの乗り降りはスムーズにできている	.006	-.029	-.030	-.023	.023	.014	.045	.000	-.018	-.053	.095	-.058	.029	-.006	**.757**	.001	-.022	.153	-.059	.009
学内のエレベーターが少ないと感じる	-.039	.021	.138	.047	-.018	-.081	-.073	.055	-.030	.098	-.070	.048	-.158	.001	**.503**	-.001	.013	-.078	-.080	.119
XVI．静粛満足　（1項目）																				
授業中，ドアの開閉音が気になる	.053	-.009	-.013	.013	-.010	-.009	-.003	.018	.004	-.009	-.007	.016	-.003	-.012	.000	**.967**	.029	.031	.039	-.005
XVII．グループワーク満足　（2項目：α＝.607）																				
授業内のグループワークでは話し合いやすい雰囲気である	.080	.061	-.014	-.033	-.020	-.033	-.028	-.089	-.003	-.027	.125	.033	.001	-.095	.051	-.012	**.716**	.084	-.005	-.016
授業のグループワークメンバーとは連絡が取りやすい	-.059	.003	.096	.001	.005	.024	.025	.084	.007	-.045	.031	-.084	-.043	.165	-.072	.055	**.542**	-.002	-.034	.008
XVIII．オリエンテーション満足　（2項目：α＝.488）																				
新入生オリエンテーションでの昼食は満足であった	-.069	.053	-.076	.029	.039	-.009	.034	.011	.045	-.005	-.134	.032	.105	-.006	.063	.057	.055	**.614**	-.023	-.081
新入生オリエンテーションの企画に満足している	.059	-.006	.070	.077	-.022	.067	.002	.041	-.064	.111	.040	-.023	.011	.104	.048	-.065	.019	**.398**	-.048	-.057
XIX．教授法満足　（2項目：α＝.365）																				
授業内でレジュメを配布して欲しい	.006	-.006	-.028	-.029	.017	-.085	.040	-.050	.060	.067	.060	.054	.037	.004	-.094	.032	-.029	-.021	**.531**	-.038
授業内容でどこが重要なのかわかりづらい	.000	.020	.061	.011	-.035	.086	.014	.051	.091	.189	.273	-.067	-.030	-.081	.063	.021	.024	-.095	**.390**	.025
XX．食堂マナー満足　（1項目）																				
食堂で食後のトレーを片付けていない人が気になる	.162	.071	-.085	.003	.059	-.034	.062	.069	-.038	-.018	-.132	.069	.241	-.037	.075	-.003	.016	-.115	-.047	**.574**
因子間相関	**I**	**II**	**III**	**IV**	**V**	**VI**	**VII**	**VIII**	**IX**	**X**	**XI**	**XII**	**XIII**	**XIV**	**XV**	**XVI**	**XVII**	**XVIII**	**XIX**	**XX**
I	—	.181	.012	-.046	.029	-.060	.230	.191	.017	-.014	-.104	-.029	.318	-.116	-.030	.454	.158	-.094	.134	.057
II		—	-.026	.166	.065	.280	.270	.019	-.010	.031	.335	-.071	-.020	-.023	.036	.114	.472	.225	-.117	.103
III			—	.062	.308	.133	.142	.276	.406	.486	.243	.435	.136	.170	.412	.144	.002	.141	.201	.260
IV				—	.103	.259	.128	-.029	.065	.144	.211	.060	-.077	.132	.153	-.008	.215	.268	-.032	.209
V					—	.086	-.024	.222	.187	.238	.133	.330	.057	-.005	.144	.002	.128	.026	.099	.098
VI						—	.332	-.021	.012	.177	.563	-.030	-.190	.087	.092	.014	.476	.344	.016	.282
VII							—	.114	.058	.214	.248	-.022	.144	.134	.116	.138	.424	.239	-.095	.069
VIII								—	.216	.211	-.038	.187	.288	.122	.222	.232	.025	-.090	.233	.040
IX									—	.464	.150	.289	.180	.148	.351	.116	.024	-.018	.173	.176
X										—	.304	.256	.113	.155	.353	.121	.172	.187	.163	.339
XI											—	.012	-.264	.026	.168	-.004	.386	.458	-.061	.361
XII												—	.078	.063	.212	.053	-.069	.027	.118	-.003
XIII													—	-.045	.201	.239	.019	-.220	.141	-.097
XIV														—	.206	-.065	.104	.202	.162	.108
XV															—	.061	.053	.154	.186	.097
XVI																—	.134	-.114	.134	.111
XVII																	—	.221	.045	.214
XVIII																		—	-.048	.205
XIX																			—	.052
XX																				—

“友人関係満足”因子と命名した。

第３因子は、「食堂のメニューが割高だと感じる」「カフェの商品の価格が高いと感じる」「生協（購買）の商品の値段に不満がある」の３項目に因子負荷が高く、生協の価格設定の満足度に関する因子と考えられるため、“価格設定満足”因子と命名した。

第４因子は、「サークルでは交流があると感じる」「サークルでの活動に満足している」の２項目に因子負荷が高く、サークルへの満足度に関する因子と考えられるため、“サークル満足”因子と命名した。

第５因子は、「教科書販売の時間が短いと感じる」「教科書販売の期間が短いと感じる」の２項目に因子負荷が高く、教科書販売への満足度に関する因子と考えられるため、“教科書販売満足”因子と命名した。

第６因子は、「授業で学びたいことが学べている」「授業内容に興味がもてる」の２項目に因子負荷が高く、授業への満足度に関する因子であると考えられるため、“学業満足”因子と命名した。

第７因子は、「トイレの洗面台が綺麗に扱われていると感じる」「カフェの手洗い場が綺麗に扱われていると感じる」「教室の机の上が綺麗な状態で保たれていると感じる」の３項目に因子負荷が高く、清潔さへの満足度に関する因子であると考えられるため、“清潔満足”因子と命名した。

第８因子は、「図書館の蔵書検索システムが使用しにくい」「図書館で本が探しづらい」の２項目に因子負荷が高く、図書館への満足度に関する因子であると考えられるため、“図書館満足”因子と命名した。

第９因子は、「成績の付け方がわかりにくい」「テストの結果が知りたい」の２項目に因子負荷が高く、成績開示への満足度に関する因子であると考えられるため、“成績開示満足”因子と命名した。

第10因子は、「休講情報などのお知らせのメールの送信時期が適切でない」「学期始まりの休講情報が確認しづらい」の２項目に因子負荷が高く、休講情報の提供への満足度に関する因子であると考えられるため、“休講情報満足”因子と命名した。

第11因子は、「授業内容についていきやすい」「先生とは話しやすい環境が整っている」の２項目に因子負荷が高く、学修環境への満足度に関する因子であると考えられるため、“学修環境満足”因子と命名した。

第12因子は、「生協（購買）の商品の種類を増やして欲しい」「生協（購買）に置いている電子レンジが少ないと感じる」の２項目に因子負荷が高く、生協への満足度に関する因子であると考えられるため、“生協満足”因子と命名した。

第13因子は、「コピー機がエラーのまま放置されていると不快だ」の１項目に因子負荷が高く、コピー機の使用方法への満足度に関する因子であると考えられるため、“コピー機満足”因子と命名した。

第14因子は、「インターンシップ関連の情報が手に入りやすい」「プロジェクト活動の情報が得やすい環境である」の２項目に因子負荷が高く、課外活動に関する情報提供への満足度に関する因子であると考えられるため、“課外活動情報提供満足”因子と命名した。

第15因子は、「エレベーターの乗り降りはスムーズにできている」「学内のエレベーターが少ないと感じる」の２項目に因子負荷が高く、エレベーターへの満足度に関する因子であると考えられるため、“エレベーター満足”因子と命名した。

第16因子は、「授業中、ドアの開閉音が気になる」の１項目に因子負荷が高く、授業の静かさへの満足度に関する因子であると考えられるため、“静粛満足”因子と命名した。

第17因子は、「授業内のグループワークでは話し合いやすい雰囲気である」「授業のグループワークメンバーとは連絡が取りやすい」の２項目に因子負荷が高く、グループワークへの満足度に関する因子であると考えられるため、“グループワーク満足”因子と命名した。

第18因子は、「新入生オリエンテーションへの昼食は満足であった」「新入生オリエンテーションの企画に満足している」の２項目に因子負荷が高く、新入生オリエンテーションの内容への満足度に関する因子であると考えられるため、“オリエンテーション満足”因子と命名した。

第19因子は、「授業内でレジュメを配布して欲しい」「授業内容でどこが重要なのかわかりづらい」の２項目に因子負荷が高く、授業の進め方への満足度に関する因子であると考えられるため、“教授法満足”因子と命名した。

第20因子は、「食堂で食後のトレーを片付けていない人が気になる」の１項目に因子負荷が高く、食堂利用への満足度に関する因子であると考えられるため、“食堂マナー満足”因子と命名した。

まず第１因子（マナー満足）に対して因子負荷量が.35以上の８項目の平均得点を調査対象者ごとに算出し、これをマナー満足得点とした。この際、項目の内容に応じて、満足度が高いほど、得点が高くなるように処理を行ったうえで平均得点を算出した。同様の手

続きで、友人関係満足得点、価格設定満足得点、サークル満足得点、教科書販売満足得点、学業満足得点、清潔満足得点、図書館満足得点、成績開示満足得点、休講情報満足得点、学修環境満足得点、生協満足得点、コピー機満足得点、課外活動情報提供満足得点、エレベーター満足得点、静粛満足得点、グループワーク満足得点、オリエンテーション満足得点、教授法満足得点、食堂マナー満足得点を、調査対象者ごとに算出した。ただし、当該因子に対応する項目が１項目しかない場合には、その１項目の得点をそのまま尺度得点とみなした。それぞれの下位尺度得点の平均値および標準偏差を表３に示した。

学年ごとの大学生活満足度得点の差異

以上で構成された大学生活満足度尺度の20下位尺度得点それぞれに対し、１年生から４年生までの４学年間で差異が認められるか否かを検討するため、学年ごとに、平均値を算出した（表３）。これら学年差について、一元配置分散分析によって検討を行った結果、学年差が認められた下位尺度について報告する。

価格設定満足得点については、学年間の差が有意であり（$F(3, 663) = 5.207$, $p < .01$）、*Tukey*法による多重比較の結果、２年生より４年生で、価格設定満足得点が高いことが１％水準で示された。

清潔満足得点については、学年間の差が有意であり（$F(3, 665) = 3.415$, $p < .05$）、*Tukey*法による多重比較の結果、３年生より１年生で、清潔満足得点が高いことが５％水準で示された。

休講情報満足得点については、学年間の差が有意であり（$F(3, 665) = 9.055$, $p < .01$）、*Tukey*法による多重比較の結果、２年生と３年生に５％水準で差が認められ、３年生より２年生で、休講情報満足得点が高く、さらに３年生と２年生よりも１年生で休講情報満足得点が高い（１年生と３年生は１％水準、１年生と２年生は５％水準）ことが示された。

コピー機満足得点については、学年間の差が有意であり（$F(3, 657) = 4.514$, $p < .01$）、*Tukey*法による多重比較の結果、３年生より１年生で、コピー機満足得点が高いことが１％水準で示された。

エレベーター満足得点については、学年間の差が有意であり（$F(3, 665) = 4.376$, $p < .01$）、*Tukey*法による多重比較の結果、１年生と２年生に１％水準で差が認められ、２年生より１年生で、エレベーター満足得点が高いことが示された。

以上より、休講情報（を通知するシステム）、エレベーター、コピー機といった施設・設備に関しては、１年生の満足度が相対的に高い傾向が認められた。言い換えれば、学年が上がるにつれて、こうした施設・設備に対する苦言が増えるようになると言える。

学科ごとの大学生活満足度得点の差異

次に、大学生活満足尺度の20下位尺度得点それぞれに対して、所属学科間で差異が認められるか否かについて検討するため、大学生活満足度尺度の下位尺度得点について所属学科（国文学科・国際英語学科・心理学科・ライフプランニング学科・化粧ファッション学科・児童教育学科・健康栄養学科）ごとに、平均値を算出した（表４）。学年により学科名が異なることもありうるが、基本的には専攻内容の継続性を鑑みて、上記７学科のいずれかとして分類した。これら学科間の差について、一元配置分散分析によって検討を行った結果、学科間の差が認められた下位尺度について報告する。

マナー満足得点は１％水準で有意差が認められた（$F(3, 662) = 6.751$, $p < .01$）。*Tukey*法による多重比較の結果、化粧ファッション学科で、心理学科、健康栄養学科、ライフプランニング学科、国文学科の４学科よりマナー満足得点が高いこと，さらに国文学科で国際英語学科、児童教育学科よりもマナー満足得点が低いことが示された（国文学科と化粧ファッション学科、国文学科と児童教育学科、化粧ファッション学科と健康栄養学科に１％水準、国文学科と児童教育学科、心理学科と化粧ファッション学科、ライフプランニング学科と化粧ファッション学科に５％水準）。

友人関係満足得点は５％水準で有意差が認められた（$F(3, 662) = 2.703$, $p < .05$）。*Tukey*法による多重比較の結果、心理学科より健康栄養学科で、友人関係満足得点が高いことが１％水準で示された。

価格設定満足得点は１％水準で有意差が認められ（$F(3, 660) = 5.649$, $p < .01$）、*Tukey*法による多重比較の結果、国文学科で、児童教育学科、化粧ファッション学科、ライフプランニング学科、国際英語学科、健康栄養学科より価格設定満足得点が高いことが示された（国文学科と健康栄養学科との間は５％水準、国文学科とその他の学科の間は１％水準）。

教科書販売満足得点は１％水準で有意差が認められた（$F(3, 662) = 3.329$, $p < .01$）。*Tukey*法による多重比較の結果、国文学科と児童教育学科に１％水準で差が認められ、児童教育学科より国文学科で、教科書販売満足得点が高いことが示された。

学業満足得点は５％水準で有意差が認められた（*F*

表３　全体および学年ごとの満足度得点

		全体	1年生	2年生	3年生	4年生
マナー満足	*M*	3.51	3.45	3.61	3.53	3.37
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.76)	(0.78)	(0.73)	(0.74)	(0.80)
友人関係満足	*M*	3.99	3.96	4.02	4.08	3.90
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.79)	(0.79)	(0.79)	(0.79)	(0.83)
価格設定満足	*M*	2.59	2.63	2.43	2.64	3.10
	N	668	338	214	89	26
	SD	(0.92)	(0.90)	(0.92)	(0.93)	(0.97)
サークル満足	*M*	2.97	3.04	2.98	2.82	2.60
	N	645	322	210	86	26
	SD	(0.92)	(0.85)	(0.99)	(1.03)	(0.69)
教科書販売満足	*M*	2.83	2.76	3.00	2.78	2.46
	N	670	339	215	89	26
	SD	(1.12)	(1.06)	(1.22)	(1.09)	(1.10)
学業満足	*M*	3.41	3.47	3.33	3.33	3.69
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.86)	(0.83)	(0.89)	(0.94)	(0.83)
清潔満足	*M*	3.30	3.39	3.24	3.14	3.22
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.74)	(0.74)	(0.76)	(0.66)	(0.82)
図書館満足	*M*	3.04	3.00	3.10	3.02	3.15
	N	667	336	215	89	26
	SD	(0.84)	(0.78)	(0.85)	(1.00)	(0.96)
成績開示満足	*M*	2.08	2.13	1.98	2.15	2.13
	N	668	337	215	89	26
	SD	(0.88)	(0.82)	(0.95)	(0.96)	(0.74)
休講情報満足	*M*	2.22	2.37	2.17	1.83	2.08
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.92)	(0.94)	(0.88)	(0.78)	(0.99)
学修環境満足	*M*	3.35	3.30	3.36	3.44	3.56
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.70)	(0.73)	(0.66)	(0.67)	(0.79)
生協満足	*M*	2.66	2.67	2.62	2.62	2.83
	N	666	337	213	89	26
	SD	(1.04)	(0.99)	(1.10)	(1.03)	(1.27)
コピー機満足	*M*	2.38	2.49	2.37	2.03	2.15
	N	662	336	211	88	26
	SD	(1.10)	(1.05)	(1.14)	(1.12)	(1.19)
課外活動情報提供満足	*M*	2.74	2.79	2.72	2.66	2.52
	N	669	338	215	89	26
	SD	(0.68)	(0.64)	(0.67)	(0.75)	(0.92)
エレベーター満足	*M*	2.17	2.27	2.00	2.25	2.10
	N	670	339	215	89	26
	SD	(0.89)	(0.85)	(0.93)	(0.85)	(0.95)
静粛満足	*M*	3.22	3.13	3.28	3.33	3.38
	N	666	338	214	87	26
	SD	(1.13)	(1.15)	(1.08)	(1.12)	(1.30)
グループワーク満足	*M*	3.19	3.24	3.17	3.09	3.10
	N	668	338	214	89	26
	SD	(0.82)	(0.80)	(0.81)	(0.93)	(0.77)
オリエンテーション満足	*M*	3.07	3.14	3.04	2.95	2.85
	N	665	339	212	87	26
	SD	(0.77)	(0.79)	(0.77)	(0.74)	(0.49)
教授法満足	*M*	2.38	2.33	2.35	2.56	2.58
	N	669	339	214	89	26
	SD	(0.79)	(0.80)	(0.76)	(0.80)	(0.81)
食堂マナー満足	*M*	3.17	3.17	3.26	3.07	2.81
	N	656	332	210	87	26
	SD	(1.11)	(1.05)	(1.13)	(1.26)	(1.20)

表４　学科ごとの満足度得点

		国文学科	国際英語学科	心理学科	ライフプランニング学科	化粧ファッション学科	児童教育学科	健康栄養学科
マナー満足	*M*	3.19	3.78	3.38	3.34	3.81	3.60	3.37
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.71)	(0.61)	(0.87)	(0.76)	(0.72)	(0.72)	(0.76)
友人関係満足	*M*	3.95	4.13	3.74	3.94	4.01	3.97	4.20
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.78)	(0.75)	(0.94)	(0.88)	(0.72)	(0.77)	(0.73)
価格設定満足	*M*	3.06	2.23	2.82	2.35	2.41	2.52	2.62
	N	66	24	66	47	72	276	116
	SD	(0.80)	(0.90)	(1.02)	(0.76)	(0.90)	(0.93)	(0.89)
サークル満足	*M*	3.06	2.87	2.84	2.91	2.85	2.94	3.19
	N	64	23	66	46	70	263	112
	SD	(0.86)	(0.80)	(0.91)	(1.13)	(1.16)	(0.83)	(0.93)
教科書販売満足	*M*	3.25	2.52	2.72	2.90	2.92	2.68	2.97
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.88)	(1.31)	(1.14)	(1.19)	(1.17)	(1.09)	(1.15)
学業満足	*M*	3.44	3.33	3.49	3.16	3.33	3.36	3.66
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.76)	(0.96)	(1.00)	(1.16)	(0.88)	(0.78)	(0.82)
清潔満足	*M*	3.28	3.04	3.22	3.21	3.31	3.28	3.49
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.57)	(0.82)	(0.75)	(0.88)	(0.78)	(0.70)	(0.80)
図書館満足	*M*	3.34	2.88	2.92	3.13	2.99	3.01	3.03
	N	67	24	66	47	72	274	116
	SD	(0.92)	(0.85)	(0.85)	(0.91)	(0.85)	(0.78)	(0.88)
成績開示満足	*M*	2.31	2.15	2.15	2.32	2.02	1.97	2.09
	N	67	24	66	47	71	276	116
	SD	(0.85)	(0.81)	(0.98)	(1.11)	(0.90)	(0.86)	(0.73)
休講情報満足	*M*	2.46	2.13	2.17	2.06	2.33	2.05	2.52
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.91)	(0.97)	(0.91)	(0.78)	(0.89)	(0.83)	(1.09)
学修環境満足	*M*	3.61	3.75	3.50	3.40	3.33	3.24	3.28
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.60)	(0.75)	(0.82)	(0.75)	(0.82)	(0.66)	(0.60)
生協満足	*M*	2.86	2.48	2.60	2.60	2.29	2.65	2.87
	N	66	24	66	47	72	273	117
	SD	(1.02)	(1.17)	(1.18)	(1.11)	(0.98)	(1.04)	(0.89)
コピー機満足	*M*	2.27	2.43	2.40	2.07	2.47	2.43	2.38
	N	66	23	65	46	72	272	117
	SD	(0.89)	(1.12)	(1.27)	(1.02)	(1.29)	(1.09)	(1.06)
課外活動情報提供満足	*M*	2.96	2.81	2.45	2.74	2.72	2.71	2.84
	N	67	24	65	47	72	276	117
	SD	(0.68)	(0.91)	(0.72)	(0.70)	(0.65)	(0.65)	(0.64)
エレベーター満足	*M*	2.62	2.04	2.15	2.11	1.83	2.04	2.51
	N	67	24	66	47	72	276	117
	SD	(0.86)	(0.82)	(0.81)	(0.78)	(0.73)	(0.85)	(1.01)
静粛満足	*M*	3.15	3.42	3.11	3.02	3.32	3.19	3.36
	N	67	24	66	46	71	275	116
	SD	(0.97)	(0.97)	(1.38)	(1.04)	(1.24)	(1.14)	(1.03)
グループワーク満足	*M*	3.04	3.31	3.00	3.07	3.13	3.17	3.52
	N	67	24	66	46	72	275	117
	SD	(0.82)	(0.96)	(0.93)	(0.87)	(0.76)	(0.79)	(0.74)
オリエンテーション満足	*M*	3.21	2.89	2.95	3.04	3.13	3.02	3.21
	N	66	23	66	47	72	273	117
	SD	(0.73)	(0.94)	(0.73)	(0.70)	(0.72)	(0.76)	(0.84)
教授法満足	*M*	2.50	2.63	2.20	2.47	2.39	2.41	2.26
	N	67	24	66	46	72	276	117
	SD	(0.69)	(0.77)	(0.84)	(0.84)	(0.81)	(0.81)	(0.71)
食堂マナー満足	*M*	3.06	3.33	3.14	3.20	3.00	3.19	3.28
	N	64	24	65	46	72	268	116
	SD	(1.10)	(1.31)	(1.21)	(1.17)	(1.21)	(1.01)	(1.18)

(3, 662) = 2.765, $p < .05$)。*Tukey*法による多重比較の結果、健康栄養学科で、ライフプランニング学科と児童教育学科より、学業満足得点が高いことが５％水準で示された。

休講情報満足得点は１％水準で有意差が認められた（F(3, 662) = 4.972, $p < .01$)。*Tukey*法による多重比較の結果、児童教育学科と、国文学科、健康栄養学科の間に有意差が認められ（児童教育学科と国文学科との間に５％水準、児童教育学科と健康栄養学科との間に１％水準)、児童教育学科で、国文学科や健康栄養学科に比べて休講情報満足得点が高いことが示された。

学修環境満足得点は１％水準で有意差が認められた（F(3, 662) = 4.977, $p < .01$)。*Tukey*法による多重比較の結果、児童教育学科、健康栄養学科よりも国際英語学科学科、国文学科で学修環境満足得点が高いことが示された（健康栄養学科と、国文学科、国際英語学科との間に５％水準、児童教育学科と、国文学科、国際英語学科との間に1%水準)。

生協満足得点は、１％水準で有意差が認められ（F(3, 658) = 2.905, $p < .01$)、*Tukey*法による多重比較の結果、化粧ファッション学科よりも国文学科、健康栄養学科で生協満足得点が高いことが示された（化粧ファッション学科と国文学科との間に５％水準、化粧ファッション学科と健康栄養学科との間に１％水準)。

課外活動情報提供満足得点は、１％水準で有意差が認められた（F(3, 661) = 3.831, $p < .01$)。*Tukey*法による多重比較の結果、心理学科よりも国文学科、健康栄養学科で課外活動情報提供満足得点が高い（いずれも１％水準）ことが示された。

エレベーター満足得点は１％水準で有意差が認められ（F(3, 662) = 9.264, $p < .01$)、*Tukey*法による多重比較の結果、国文学科で、心理学科、ライフプランニング学科、化粧ファッション学科、児童教育学科よりもエレベーター満足得点が高いことが示された（国文学科と化粧ファッション学科、児童教育学科との間に１％水準、国文学科と心理学科、ライフプランニング学科との間に５％水準)。また、健康栄養学科では、化粧ファッション学科と児童教育学科よりもエレベーター満足得点が高いことが１％水準で示された。

グループワーク満足得点は、１％水準で有意差が認められ（F(3, 660) = 4.610, $p < .01$)、*Tukey*法による多重比較の結果、健康栄養学科は国文学科、化粧ファッション学科、ライフプランニング学科、児童教育学科、心理学科よりグループワーク満足得点が高いことが示された（健康栄養学科とライフプランニング学科、化粧ファッション学科との間で5%水準、健康栄養学科とその他の学科との間は１％水準)。

考　察

本研究では、在学生とともに作成された項目に基づき、本学在学生の大学生活に対する満足度の測定を行なった。因子分析に基づいて抽出された20個の下位尺度について、学生全体の満足度、その学年による差異、所属学科による差異が認められるか否かが検討された。マナー、友人関係、価格設定、サークル、教科書販売、学業、清潔、図書館、成績開示、休講情報、学修環境、生協、コピー機、課外活動情報提供、エレベーター、静粛、グループワーク、オリエンテーション、教授法、食堂マナーそれぞれの領域に対する20の満足得点は、学生が大学生活全般に対してもつ“満足感”をきめ細かくすくい上げたものであると言える。

学年差については、基本的に学年が上がることによって満足度が低下する傾向が見て取れたが、これは、“施設”としての大学の利用頻度が、学年が上がることによって上がること、そしてその結果として不満が生まれやすいことを表しているのかもしれない。こうした解釈は、学科間の差異にも適用できる可能性がある。たとえば健康栄養学科で、エレベーター満足得点が比較的高いことは、施設設備が１つの棟（翔空館）に集まっている健康栄養学科においては、相対的に他の棟のエレベーターの利用頻度が少ないことを反映しているのかもしれない。しかしながら、こうした学科間の差異については、これをどのように解釈すべきであるか、慎重な議論が必要であろうと思われる。本研究においては、学科間の差異については統計的に検討を行ったが、その解釈に関しては、別の機会に譲ることにしたい。特に本研究で測定しているような“満足感”に関しては、田川（2011）が、大学差も大きいが、個人差も大きいと述べているように、環境としての整備の度合いと個人の特性との相互作用として立ち現れるものであり、たとえば学科ごとの学生の特質といった系統的な個人差に関わるデータとともに解釈されるべきものであると考えられるからである。さらに本研究のデータは、学年間、学科間で、収集できたデータ数に偏りがあり、こうした偏りが結果に交絡している可能性もある。本研究は、あくまで特定の授業内の課題として行われたものであり、悉皆的な調査を行うことは不可能であった。今後の課題としては、こ

うした調査を悉皆的に、あるいは学年や学科間での偏りのない状態で行うことが求められている。

そして、本研究においてさらに重要なことは、こうした満足度の“構造”についてである。先述のように、本研究においては学生目線からのかなりきめの細かい領域の満足度について測定している。これらの領域に対する満足度が、相互にどのように関連しているのかについても、さらなる分析が必要である。たとえば見舘他（2008）の結果においては、「教員とのコミュニケーション」が大学生の学習意欲に影響を与え、さらに大学生活の満足度に寄与していることが示されている。一方で、「友人とのコミュニケーション」は、学習意欲にも、それに続く大学生活の満足度にもほとんど影響を与えていないことが示された。見舘他（2008）の研究においては、大学生活の満足度は、「学業及び日々の大学生活における充実感から起こる満足度」と定義されているので、大学の本分である学業の面に依存度の大きい満足度であることは間違いないが、こうした満足度がどのような領域の満足度と関連が強いのか、といった点については、さらに検討を加えていかねばならない。

また、たとえば山田・冷川・峰松（1980）は、すでに社会人となっている卒業生を対象にして、アンケート調査を実施し、自分の大学生活を振り返って、どのような意義を大学に見出したのか、大学生活の満足度や健康状態をどのように評価しているのかを検討している。また、伊藤・大高・牟田・三瓶・佐々木（2007）、大高・伊藤・牟田・三瓶・佐々木（2007）も、短期大学看護学科卒業生の卒業後のキャリアや資格取得の実態を把握するための調査を実施し、これを学生生活に対する満足度との関係において分析しようと試みている。山田他（1980）は、大学生活についての意見は在学中の学生達の「なまの」意見よりも、社会人となった目で学生生活を振り返ってみる方がよりクールな意見が出る可能性があると述べている。その真偽はともあれ、当事者であるからこそ見えることもあれば、当事者であることによって見えにくくなってしまうこともある。今後は、卒業生を対象にした満足度調査も視野に入れたうえで、本学のシステムに対する学生の満足度を把握し、どのような大学にしていくことを本学の目的とするのか、本分を忘れず邁進していくことが望まれる。

注

1）本調査は、2017年度のライフプランニング学科の専攻科目、「社会調査実習Ⅰ・社会調査実習Ⅱ」（担当：川上正浩）の課題として、川上の指導のもと、実施された。受講生の泉井利予氏、大石侑花氏、奥野夏奈氏に感謝の意を表する。

引用文献

伊藤征一　(2008)．授業に対する学生の満足度の構造　星城大学経営学部研究紀要，*5*，97-108．

伊藤美奈加・大高恵美・牟田能子・三瓶まり・佐々木理恵子　(2007)．日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第1報）：卒業生の就業・進学状況と卒後の資格取得の実態　日本赤十字秋田短期大学紀要，*11*，67-75．

華表宏有・土井徹・松田晋哉・曽根智史　(1987)．学生による授業評価とその活用　医学教育，*18*，251-258．

片倉久美子・土田幸子　(1994)．本学における学生生活の適応に関する実態調査　岩手女子看護短期大学紀要，*1*，89-98．

勝矢光昭・小林みどり・福田宏・山浦一保　(2006)．学生満足度調査の結果とその分析　経営と情報：静岡県立大学・経営情報学部 / 学報，*19*，37-55．

川上正浩・坂田浩之・佐久田祐子・奥田亮　(2005)．新入生オリエンテーションに関する研究（1）日本心理学会第69回大会発表論文集，1251．

川上正浩・坂田浩之・佐久田祐子・奥田亮　(2009)．新入生オリエンテーションに関する研究（5）大学における所属学科への帰属感高揚プログラムの開発に関する探索的研究　日本心理学会第73回大会発表論文集，1282．

喜村仁詞　(2011)．女子大学における学生満足度の向上を通じたブランド戦略　経営戦略研究，*5*，97-108．

金城かおり　(2003)．琉球大学における留学生支援体制と留学生の満足度：「帰国留学生アンケート調査」及び「留学生アンケート調査」を基に　留学生教育：琉球大学留学生センター紀要，*1*，17-33．

小林道也・小田雅子・齊藤浩司　(2005)．北海道医療大学薬学部３年次学生における調剤実習の満足度調査　*YAKUGAKU ZASSHI*，*125*，417-425．

牧野幸志　(2002)．学生による授業評価，満足感と単位修得との関係―単位不認定の学生は，授業に不満を抱くのか？―　高松大学紀要，*38*，49-61．

牧野幸志・森裕紀子 (2002). 大学生活に対する満足度に関する教育心理学的研究―学生は大学に満足しているのか？― 高松大学紀要, *37*, 59-72.
南学 (2007). 学生による授業評価へのCS分析の適用 三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, *27*, 29-34.
見舘好隆・永井正洋・北澤武・上野淳 (2008). 大学生の学習意欲, 大学生活の満足度を規定する要因について 日本教育工学会論文誌, *32*, 189-196.
中野良哉 (2007). 学生の授業評価に基づく授業改善の試み―講義型受動的学習型から能動的学習型への展開― 高知リハビリテーション学院紀要, *9*, 9-16.
縄田文子 (2001). 本学学生の満足度調査 大阪国際英語学科女子大学紀要, *27*, 19-37.
縄田文子・加藤潤三 (2009). 本学学生の満足度調査（Ⅱ） 国際英語学科研究論叢, *22*, 1-23.
大高恵美・伊藤美奈加・牟田能子・三瓶まり・佐々木理恵子 (2007). 日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第２報）：社会人経験の有無と学業に対する取り組み, 学生生活に対する満足度の関係 日本赤十字秋田短期大学紀要, *11*, 77-84.
岡村千鶴・加藤基子・清野純子 (2014). 看護学科の初年次教育における助言教員ゼミを通しての学生の学び 帝京科学大学紀要, *10*, 251-259.
岡村千鶴・清野純子・堀之内若名・加藤基子 (2015). 看護学科の初年次教育における助言教員ゼミを通しての学生の学び（第２報）：満足度に影響する要因 帝京科学大学紀要, *11*, 169-178.
奥田亮・川上正浩・坂田浩之・佐久田祐子 (2010). 大学１回生から４回生までの横断および縦断データから見た大学生活充実度の推移 大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要, *9*, 1-14.
奥田亮・川上正浩・坂田浩之・佐久田祐子 (2011). 大学初動教育としての帰属感高揚プログラムの開発 大阪樟蔭女子大学研究紀要, *1*, 235.
奥田亮・川上正浩・坂田浩之・佐久田祐子・川野佐江子・川端康之 (2016). 大学における全学科学生を対象とした帰属感高揚プログラムの開発―2013～2015年度プログラムの比較と「教員の対談」の分析― 大阪樟蔭女子大学研究紀要, *6*, 3-12.
小塩真司・願興寺礼子・桐山雅子 (2006). 2006年度入学生における進学目標・学科選択理由・満足度の学部間比較 中部大学教育研究, *6*, 87-92.
坂田浩之・佐久田祐子・奥田亮・川上正浩 (2013). 複数コホートの大学１回生～４回生の縦断データから見た大学生活充実度の学年変化 大阪樟蔭女子大学研究紀要, *3*, 29-37.
坂田浩之・佐久田祐子・奥田亮・川上正浩 (2018). 大学生活充実度と大学へのリテンションとの関連―SoULS-21を用いた縦断的研究― 大阪樟蔭女子大学研究紀要, *8*, 39-46.
佐久田祐子・奥田亮・川上正浩・坂田浩之 (2014). 大学への帰属感と大学生活充実度を高める教育プログラムの開発 大阪樟蔭女子大学研究紀要, *4*, 15-22.
塩沢千文・大泉伊奈美・矢澤庸徳・友竹浩之 (2003). 短期大学生のパソコン操作技術と情報教育に対する評価 飯田女子短期大学紀要, *20*, 61-75.
田川隆博 (2011). 学生満足度の分析-名古屋文理大学満足度調査より 名古屋文理大学紀要, *11*, 81-86.
田実潔・後藤靖宏・鈴木剛・古谷次郎・高杉巴彦 (2016). 学生による授業評価にみる特徴と課題：授業改善のためにできること 北星学園大学経済学部北星論集, *55*, 67-73.
田実潔・後藤靖宏 (2017). 学生による授業評価にみる特徴と課題Ⅱ：授業改善のためにできること 北星学園大学社会福祉学部北星論集, *54*, 147-152.
田実潔・鈴木剛・岩本一郎・古谷次郎・後藤靖宏 (2012). 授業改善に直結する学生授業評価の検討（Ⅰ）：テキストマイニングを使ったリアルタイム授業評価システム導入例の視察結果 北星学園大学文学部北星論集, *49*, 45-53.
田実潔・鈴木剛・岩本一郎・古谷次郎・後藤靖宏 (2014). 授業改善に直結する学生授業評価の検討（Ⅱ）：新学生授業評価アンケート調査の策定に向けて 北星学園大学社会福祉学部北星論集, *51*, 81-90.
田実潔・鈴木剛・岩本一郎・古谷次郎・竹原卓真 (2010). 学生や教員, 職員が望む大学授業に関する研究（Ⅰ）３者に対するアンケート調査から・総論編 北星学園大学文学部北星論集, *48*, 15-22.
田実潔・鈴木剛・岩本一郎・古谷次郎・竹原卓真 (2011). 学生や教員,職員が望む大学授業に関す

る研究（Ⅱ）　北星学園大学で学ぶ学生の傾向（性差・学年差・学科間差）　北星学園大学社会福祉学部北星論集，*48*，15-25.
田実潔・竹原卓真　(2008)．学生による授業評価に基づいた授業改善への探索的研究：授業評価アンケートの分析から　北星学園大学社会福祉学部北星論集，*45*，37-43.
田実潔・竹原卓真　(2009)．学生による授業評価に基づいた授業改善への探索的研究（Ⅱ）：授業評価アンケートの分析から　北星学園大学社会福祉学部北星論集，*46*，65-72.
田実潔・竹原卓真・鈴木剛・岩本一郎・古谷次郎　(2010)．学生による授業評価に基づいた授業改善への探索的研究（Ⅲ）：過去３度のアンケートの縦断分析から（2003-2007）　北星学園大学経済学部北星論集，*49*，1-16.
内田千春・亀山有希　(2011)．海外スクールインターンシップを通して学生は何を得ているのか--教員・保育者養成における異文化体験の意義　名古屋女子大学紀要　家政・自然編，人文・社会編，*57*，161-172.
梅本信章　(1992)．大学新入生の適応について―自己の大学生活に対するイメージと友人関係との関連―　盛岡大学紀要，*11*，27-38.
山田裕章・冷川昭子・峰松修　(1980)．学生生活の研究　1.卒業後から見た大学生活の満足度　健康科学，*2*，155-161.

A Survey on University Life Satisfaction at Osaka Shoin Women's University.

Faculty of Liberal Arts, Department of Psychology
Masahiro KAWAKAMI

Abstract

The purpose of this study is to grasp the extent to which our students are satisfied with university life, what kind of things they are satisfied with, and what kind of things they are not satisfied with. In particular, the students themselves conducted a survey of 670 students, using specific measurement items of fine satisfaction levels created by the students' own perspective.

As a result of the survey, 20 subordinate areas of satisfaction were extracted. They were satisfied with friends, price, circles, the purchasing system of textbooks, academics, cleanness, the library, disclosure of academic results, class cancellation notification system, the academic environment, university COOP, copy machines, extracurricular activity information provisions, elevators, quietness, orientation, teaching methods, and with canteen manners. For these subscale scores, differences between grade levels and departments were examined.

Keywords: Osaka Shoin Women's University, University Life Satisfaction, Current Students